

## 4月のコラム ～ 昭和はうるさかった？

2月のコラムでも取り上げたテレビドラマ「不適切にもほどがある」の中で、前回印象的なセリフがありました。1986年から2024年に戻ってきた令和の社会学者（吉田羊）の「どうでした？ 昭和」と尋ねられたときの答えです。「なんか全体的にうるさかったな。人が」という言葉。「今はほら、コレ（イヤホン）でコレ（マスク）だし。それにわかんないことは人に聞かず検索するから静かだよ」と。

考えたこともありませんでしたが、そうかもしれません。先月のコラムで飲食店等での無人化体験について書きましたが、無人なので当然お店の人との会話はありません。最近電車の中でも話をしている人はそう多くありませんよね。会話だけでなく、自動車も静かで近づいてきたのに気づかないこともありますし、洗濯機、掃除機といった家電も消音設計がされていて、大きな作動音はしません。昔は、どこからともなくピアノの練習音が聞こえてきたり、道端で遊ぶ子どもたちの声が響いていたり、住宅街も結構にぎやかだったように思います。やはり昭和ってうるさかったのかな？

話がそれてしまいましたが、静かになった令和。人と人との会話が確かに少なくなってますよね。仕事でも日常生活でも、直接話さずに目的を達成することができる場面が増えてきて、会話をした時に“ついでに得られる情報”が少なくなっています。また、予定外の人のお話を聞くことで、あらたな気づきやアイデアが生まれるという相乗効果を得るチャンスも失っているかも。空気を読んで遠慮してしまうので、ぶつかりながらお互いの理解を深めるという機会も減っています。

意図的なものでなく無意識に起こってしまうパワハラの原因の多くは、思いが上手く伝わっていないコミュニケーションギャップによるものです。日頃から思ったことを口にして、たくさん会話をしていたら「ああ、こんな人なんだな」と相手への理解が進みます。そうすれば、ちょっとキツめの言い方をしたり、うっかり口を滑らしたとしても、目くじら立てたり、気をまわし過ぎて傷ついたりせずに済むのかもしれません。少し腹が立っても真意がわかれば許せるかもしれません。また、相手が大切にしていることや気にしていることなどが日頃の会話で掘めていたら伝え方を工夫することもできると思います。

雑談やついでの会話、ムダにも思える本筋の前後の対話って面倒に感じることもあるのですが、実は、とても大事なのですよね～